

# SRC杯ゴールド・トロフィー・レース No.2

72年 3月19日 中山サーキット 1周1.6km

今シーズン2戦目を迎えたゴールド・トロフィー・シリーズは、大きな盛り上がりを見せている。今回も総計51台のマシンが中山サーキットに集結。前日の好天気とはうって変わった今にも降り出しそうな空模様のもとで、4レースにわたって熱戦を繰り広げた。

今回はミニカー・レースに、四国の高知より遠路はるばる駆けつけた紅一点・北添美代子選手が出場。居並ぶオノコどもを蹴散らして8位でフィニッシュし、やんやのかっさいを浴びた。

## 青木フロンテが360ccながら健闘

〈ミニカー・レース〉 出走16台 スタート  
AM11:00

まず65秒7をマークしてポールポジションを獲得した中本健吾の⑩ホンダN500が好ダッシュ。守井健一の④ホンダN500がこれにつづく。中本はピッチを上げて2位以下をしいに引き離し、独走態勢を確立してレースをリード。

しかし23周め、好調に走りつづけてきたトップの中本に異変が発生。第3コーナーのアウト

側にストップしていた車に接触し、リタイアしてしまったのだ。このため守井が「労せず」トップに進出。2位・瀬良健一(②戸田NV)、3位・青木健一郎の④フロンテ360——という順になる。

1周後、青木が瀬良を抜いて2位。ただ1台の360ccながら、500勢を向うにまわしてのあざやかな走りっぷりだった。30周を最初に走り切ったのはもちろん守井。これに34秒8遅れて青木が2位でフィニッシュした。

## 中盤から横田ベルコが独走

〈F-J/FLレース〉 出走6台 スタート  
PM12:30

ベースカーに先導され、2列縦隊でローリング・スタート。予想どおり、予選1位の石崎恒行(②戸田RS)がトップに立つ。常勝・横田英毅の⑦ベルコ96Aは2位。横田は石崎を射程距離に捕えたまま、周回を重ねる。

15周め、横田がついに1位の座を奪った。石崎は必死に追いすがる。が、その無理がたた

たか、19周めにエンジン・トラブルで脱落。2位には丸木健蔵の⑩ハヤシ706が進出する。

3位を走っていた中村幸治の⑨アルプM1は、ゴールまであと7周を残したところでピットイン。プラグ交換後に再スタートしようとしたが、ガス欠でエンジンが始動しない。けっきょく、「燃料・オイルの補給はいっさい認めない」という規定により、惜しくも完走を逃がしてしまった。

完走車は、1位・横田、2位・丸木の2台のみ。

## トップの北川が序盤でクラッシュ

〈2000レース〉 出走6台 スタートPM1  
:50

前日の練習でエンジンをこわした守谷進の⑥ロータリー・クーベは、予選を受けられず最下位からスタートすることになった。ダッシュ鋭く飛び出した、北川良三郎の②ロータリー・クーベがまずリード。しかしハイペースがたたったか、3周めの50Rでコースアウトしてクラッ